

地域協働 子どもら変化

県校外教育協会が総会

地域と連携した活動や郷土愛を育む活動など学校外での教育実践を促進する県校外教育協会(村上博俊会長)の総会が12日、さいたま市浦和区で開かれた。研究委嘱を受けた小中学校4校が実践成果を発表。地域と協働すること、子どもたちの自己肯定感や学びへの主体性が飛躍的に高まった事例などが報告され、県内各地から参加した学校長らが熱心に耳を傾けた。

志木市立宗岡第二小学校は、25年間続く「親子ふれあい田んぼ」の実践を報告。PTAやその経験者らが中心となって、種まきから田植え、草取り、稲刈り、収穫したもち米を使ったもちつき大会に加え、わらを使った草履作りの

などに取り組んだ。年間を通して、伝統的な稲作文化を学ぶことによって、環境学習や地域の人たちに対する「おか



地域と連携した実践報告に熱心に耳を傾ける県内各校の校長ら。12日、さいたま市浦和区のさいたま商工会議所会館

肯定感 主体性高まる

「げさま」の心が育まれているとした。

越谷市立平方中学校は、地元自治会などと協働で、地域の危険箇所を見つけ、情報発信したことで、行政を動かす力になった実践などを報告。2年前の調査で「自分のことが好き」と答えた生徒が52%から86%になり、「学ぶことが好き」と答えた生徒は39%から87%にそれぞれ飛躍的に上がったとまとめた。

本年度で閉校となる飯能市立東吾野小学校は、地域の専門家の協力を得て、ゲンジボタルの飼育に35年間取り組んできた実践を報告。「ホテルが自然に生息できる環境を取り戻す」という当初の目的が、自治会など地域住民との活動によって達成できたと語った。

深谷市立明戸中学校は、地域住民のボランティアで組織

する「学校支援本部」の活動などを報告。生徒の職業体験の受け入れ先交渉を教師に代わって担ってもらっているほか、郷土芸能「新井橋獅子太鼓」の指導、花壇づくりなどを行っている。また、地域と合同で防災訓練を行うことで、中学生自身が地域防災を担う自覚も育つとした。

講師した県教育局市町村支援部長の松本浩氏は「どの実践も地域と学校がウィンウィンの関係をつくっている。地域とつながると楽しくなる。これからも連携を進展させたい」と述べた。

総会では会長に村上氏を再任。本年度の研究実践校として、本庄市立共和小学校、八潮市立中川小学校、さいたま市立南浦和中学校、嵐山町立玉ノ岡中学校にそれぞれ委嘱状を交付した。